

昭和63年度 和歌山県文化功労賞

あん らく あき ひさ
安 楽 昭 壽

住 所：和歌山県和歌山市
出 身 地：京都府京都市
生 年：昭和3年

求を心がけ、作曲にも現代邦楽「慈光遍満」、日本舞踊「紀州三寺に因む御詠歌に依る変奏曲」、高野山真言聖歌「金剛」などがある。

◎業績及び経歴

氏は、昭和29年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業後、武庫川学院で教鞭をとり、同学院において管弦楽団創設に関わり指導した。また、昭和31年和歌山に居を移してからは、当時全国的にも珍しい地方歌劇団である和歌山歌劇団を結成、昭和34年まで主宰する等、特異な音楽活動を続けていたが、その後、声明研究を志し、昭和40年、高野山高校にて音楽担当の教諭となった。

その間、元高野山大学学長中川善教師の指導の下に代表的著書『和讃の研究』(昭和49年)を著し、和讃の旋律を楽譜に照らして分析、採譜し、現代に生かして紹介した。その後も、継続して南山進流声明に関する研究考察を発表、現在も辻秀道師と共同で『南山進流声明の考察と手引』を出版準備する等、膨大な資料解明のため地道な活動を続けられ、昭和56年の論文「声明考察(南山進流)その一」は、国文学年次別論文集に掲載されるなどその活動は学術的にも高く評価されている。口伝により、伝えられてきた声明を採譜し、後世に伝える意義は、実に大きいものがある。

昭和43年から和歌山大学非常勤講師を兼務。昭和52年助教授、昭和55年教授となり現在に至る。後進の指導に当たるかたわら、昭和49年から52年まで和歌山市交響楽団常任指揮者、昭和57年からNHK全国学校音楽コンクール審査員、昭和62年から和歌山音楽コンクール審査委員長として幅広い活動を行っている。

また、幼少の頃より京都で育ち、邦楽に深い憧憬の念を持っていた氏は、邦楽と洋楽の接点の探